

三条界隈のゴミ穴

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



検出した遺構と出土状況

今回紹介する遺跡は、2006年6月に発見したゴミ穴と見られる土壙です。場所は中京区富小路通三条上る福長町にあたります。三条界隈は「せと物や町」として知られており、周辺でもこれまでに、近世初頭の陶磁器が多量に出土しています。今回の調査地で5例目になります。

この遺跡は工事の掘削中に見つかりましたが、関係者の協力によって、壁面の立会調査をすることができました。

見つかった遺物には、土器類、瓦類、木製品、金属製品など様々なものがあります。

陶磁器の大半は国産で、中国輸

入磁器も少し見つかっています。国産陶器は、美濃・唐津・高取が多く、次いで信楽・伊賀の製品があり、備前・丹波は少量でした。珍しい織部の陶印もありました。

他には、木製品の下駄・箸・曲物・漆器椀・木札・傘の部材・柄杓の柄などが見つかりました。墨書のある木札には、「 屋 天 下一 さがみ」、両側面に「天下一御」と「 屋」が書かれています。金属製品には、真鍮製キセル・吊り金具・鍵・火打ち金・鉄砲玉などが出土しています。その他に、金箔瓦や砥石、軽石、自然遺物(ウリ・ヒョウタン・ナス・サンショウの種子・クリ果

実) 動物遺存体(貝・魚・鳥・哺乳類・昆虫)などがあります。

今回見つかったゴミ穴は、陶磁器が多量に捨てられているという点では周辺の土壌と同じですが、陶磁器以外の遺物が多く含まれている点では大きく異なります。しかし、捨てられた年代を出土した土器から見ると、中之町・下白山町の土壌と同じく1630年代に捨てられたと考えられます。なぜ、陶磁器が多量に捨てられたのかわかりませんが、当時の三条界隈を考える上で新たな資料の追加となりました。ゴミ穴から見る歴史の一端に、思いを馳せてみてはいかがでしょうか。(中村 敦)



福長町出土



木札「天下一」

陶印



三條界隈の出土地



中之町出土



下白山町出土